

令和6年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、世界のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。 ◇ 「ほんまもん」の学びに出会い、一人一人が活躍できる学校を目指す。 ・学びの本質を知り幅広い教養を身につける授業を通して、未来へ続く学びの礎を築く。 ・フィールドワーク、実験、調査などを活用したラボ活動（スーパーサイエンスラボ、アカデミックラボ）を通して、課題設定・課題解決能力を育む。 ・海外連携校や留学生との国際交流を通して、多様な価値観に触れ、グローバルな視野と実践的英語力を育む。 ・生徒が中心となって取り組む学校行事、部活動を通して、豊かな人間性や協働性、リーダーシップを育む ◇ 嵯峨野GLIの実現を目指す。 嵯峨野高校の教育を通して、志をもって主体的に社会とかかわり、将来、世界で活躍できるグローバル人材の育成を目指すという嵯峨野高校の教育理念。 *嵯峨野GLI：嵯峨野グローバルリーダーシップイニシアティブの略	① 日々の授業を中心に、SSH事業や探究活動、グローバル教育等、本校の特色ある取組を分掌・教科間で連携して推進することができた。今後、教職員研修、研究授業の充実や学習用タブレット端末の活用方法の改善を図る等、さらなる充実を図り、質の高い学びの提供につなげていく。 ② 新学習指導要領の進行に伴い、観点別評価の定着は進んでいるが、さらに研究を進めていく必要がある。生徒の進路については高い目標を維持することができており、卒業生の多くが希望進路を実現できた。今後、評価と課題の一体化、新指導要領下で初めてとなる令和7年度大学入試を見据えた進路指導のあり方を研究し、教員間で共有していく必要がある。 ③ 日々の教育活動をとおして人権尊重の意識、身だしなみや完全下校厳守等の規範意識向上に努めた。また、委員会活動や学校行事、探究活動、部活動等において、生徒の主体性や適切な判断力、実践力の向上にも努めた。生徒指導提要の趣旨に則り、校内におけるルール、規則の見直しについて生徒や保護者と積極的な意見交換を進めた。今後さらに、生徒が主体的に取り組む活動を充実させていく必要がある。 ④ 様々な課題を抱える生徒に対して分掌・教科等が協力して適切に対応することができた。委員会活動をとおして環境美化意識の向上にも努めたが、ゴミの分別や節電意識の改善に課題がある。また、すべての生徒が自己肯定感をもって、心身両面において健やかに学校生活が送れるよう継続してサポートしていく必要がある。 ⑤ 学校説明会やブログ等をとおして、本校の教育目標や教育内容の発信に努め、入学者選抜における生徒募集にもつながった。また、ラボ活動や部活動を通して地域とかかわることもできた。今後さらに本校の魅力を伝える場面を多岐にわたり設定できるように努める。 ⑥ 設備の老朽化について、適宜改修を行うことができた。また、LED化や人感センサー等設備改善を進め、節電にもつながった。今後も状況に応じて適切な対応をし、安心安全な学習環境の整備につなげていく必要がある。また、ICTを活用した業務改善につながるサポートにも努めたい。 ⑦ 教職員の働き方改革の一環として、次年度からの完全下校の一部見直しや業務の一部削減に着手したが、引き続き教職員の意識改革や業務の見直しにも取り組み、心身共に健康に働ける環境作りに努める。	① 魅力ある学校作り 主体的に学び続ける生徒を育てるため、質の高い学びを提供する。 ② 組織とその運営 分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。 ③ 学習と進路指導 新学習指導要領に基づき教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。 ④ 生徒指導と特別活動 人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を受け入れ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。 ⑤ 健康安全と環境美化 すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。 ⑥ メディアの活用 学校図書館の機能や役割を充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なものとする。 ⑦ 家庭・地域社会との連携と広報活動 校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれる学校をめざす。

評価基準
A 充分達成できている（目標以上の成果が得られた） B ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果が得られた）
C 達成できているとはいえない（成果が不十分である） D ほとんど達成できていない（ほとんど成果がない）

令和6年度 学校経営計画 成果と課題【最終評価】

評価領域	重 点 目 標		具体的方策（R6）	評価		成果と課題
魅力ある学校づくり	主体的に学び続ける生徒を育てるため、質の高い学びを提供する。	1	生徒の興味、関心を刺激して主体的に学ぶ姿勢を育てる授業を実践する。	B	A	各教員が質の高い授業を意識してしっかりと取り組んでいる。教材研究の時間が十分に確保できればさらに改善されると思われる。 課題で手一杯となり、主体的に学ぶ余裕が持てない生徒への配慮も必要である。 外部講師による特別講義を実施でき、生徒の興味関心への刺激になった。
		2	探究学習を通して生徒に身につけさせたい資質・能力を明確にし、学校全体で共有・連携して将来を見据えた包括的な指導を行う。	B		教職員研修を通して、探究活動の取組や目標について全教職員で共有することができた。適切な動機付けにより生徒は意欲的に探究学習に取り組んでいる。さらに認識を共有するために話し合いの場が必要であり、ラボ担当者会議や教科会議を、連絡事項を伝達するだけでなく、指導の内容について協議する場にしていきたい。
		3	コンテストや発表会等への積極的な参加を促し、生徒の自己効力感の向上に努める。	A		コンテストや発表会等についてポータルサイトやプリントの配布等により周知が進み、どのラボにおいても外部発表に背中を押す声かけを推進することができた。サイエンスフェスタやSSH全国発表会、学会発表、その他発表会への参加を希望する生徒も増えてきた。参加した生徒は意欲的に取り組み、自己効力感の向上につながっていることが感じられる。
		4	海外連携校・在京留学生などとの相互交流や国際交流の機会、海外研修の機会を充実させ、グローバル社会と主体的にかかわる人材育成に努める。	A		対面・オンラインでの国際交流の機会を多数設定することができた。生徒は意欲的に取り組み、グローバル社会と主体的にかかわる動機付けとなった。新たな交流校も増え、機会の充実は達成できている。 Sagano Global Forumにおいて、海外連携校・在京留学生などとの交流ができた。3年生のキャリアワークショップなど、これまで以上に取組を充実させることができた。 日韓グローバル公民権ワークショップについては、昨年に継続して参加しており、今年度はサマーキャンプにも生徒を派遣することができた。積極的に海外研修や留学制度を活用するなど、グローバルリーダーとしての素質を伸ばそうとする姿勢も多々見られる。
		5	1人1台端末のより効果的な活用法を研究・推進する。	A		1人1台端末を例年より2か月早く使い始められるように調整し、年度当初からの活用につながった。 Google Classroomをはじめ、授業等において学習用端末を活用する機会が増えている。格技場でWi-Fiが接続できるようになり、より活用の幅が広がった。 今後、デジタルの方が効果的な場面とアナログの方が効果的な場面について、生徒が自ら判断しながら活用できるようになるとさらによいと考える。 教員に対してミニ研修会を継続的に実施することができた。
組織とその運営	分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。	6	各種行事や取組について、事前調整を丁寧に行う等、関係分掌間の連携を密にし、円滑な実施に努める。	B	A	行事運営においては共有すべき情報量が膨大であり、すべてを伝えきることができていない状況もあるが、各行事を全分掌の協力のもとおおむね円滑に進めることができた。 丁寧に連絡することに加え、より連携を密にするために互いに不足している部分をフォローするようなコミュニケーションや打合せや会議のあり方の見直しも必要である。
		7	本校の教育活動の特色の1つである探究学習について、全教職員で取り組む体制を充実させる。	A		年間を通して探究活動の指導に全校体制で取り組み、校外のさまざまな機関と連携をとりながら活動内容の充実を図ることができた。全学年合同の探究発表会（SGF）や1・2年合同の探究成果発表会などを学校全体の行事として取り組むことで、全教職員で探究活動に関わる体制・意識作りもできた。 SGFや探究成果発表会を全校体制で実施することができたことは一歩前進であるが、さらに充実した取り組みとするために教員間の連携をより密にしていきたい。 充実した探究学習が継続できるよう、教員研修の充実や課題・指導の共有、引継ぎの工夫を進めていく必要がある。
		8	教職員一人一人が様々な危機への感度を高めることにより、危機発生時の未然防止に努める。	B		避難訓練や救命救急に関する教職員研修を通して、安全に対する意識を高めることができた。コミュニケーションアプリでの迅速な情報共有も有効に機能した。4階の窓が全開にならない対応を施すなど危険防止にも努めた。
		9	学校施設・設備の安心安全の確保のため、委託業者による法定点検のみならず、校内自主点検を加えることにより、危機管理的予防対応も可能な校内体制を構築する。	B		コミュニケーションアプリでの情報共有により、迅速な設備の改善・補修ができている。また、グラウンド防球ネット修繕、プール水浄化装置修繕、図書館雨漏り改修、体育職員室エアコン修理、玄関外壁タイル修繕、バート練習室換気設備修繕等を実施した。
		10	照明設備のLED化、ICT設備の充実や老朽化した設備の更新などについて、計画的・効率的に予算を利活用し、学習環境の充実を図る。	A		照明LED化、無線アクセスポイント増設、食堂・厨房空調設備整備、数理解析準備室床改修等、学習環境の充実を図った。
		11	業務改善の一層の推進のため紙媒体文書の電子化推進と、それに伴う個人情報や機密情報の保護・管理などリスクマネジメントを行う。	A		さくら連絡網により紙文書の削減が進んだ。また、授業でのプリント等についても、デジタルと紙媒体を適宜使い分けながら配布・配信ができている。ICT会議において電子化のリスクを十分に検討できており、電子化に伴うリスク管理、個人情報や機密情報の保護・管理を行いながら、業務改善のあり方も模索していきたい。
学習と進路指導	新学習指導要領に基づく教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。	12	新学習指導要領の趣旨に即した学びの充実や評価の適正化をさらに推進するため、教職員の研修や研鑽の機会の充実を図る。	B	A	この3年間の取組を踏まえて、さらに評価の適正化をすすめる必要がある。特に主体的に学習に取り組む態度の評価については、生徒の学びを改善するための評価になるよう、さらなる工夫が必要である。
		13	進路ガイダンスや面談をはじめ、あらゆる機会を用いて、生徒が明確な将来像を描けるように働きかけるとともに、高い進路目標を目指し粘り強く努力する生徒集団の育成に努める。	A		進路指導部、学年部、各教科等が連携し、丁寧な進路指導を行うことができた。進路ガイダンスや面談を通して、生徒の意識が高まり、生徒の頑張りにつながっている。今後さらに連携を回り、高い進路目標実現に向け努力する生徒の育成に努める必要がある。 総合型選抜、学校推薦型選抜志願者が増加傾向にあるが、動向に注視し、早期に進路決定をしてしまいたい方向に流れないよう、高い進路目標達成に向けた指導を教員間で共有し、粘り強く指導していく必要がある。
		14	新課程入試への対応が円滑に進むよう積極的な情報収集と情報共有に努める。	A		進路指導部を中心に情報収集、情報共有ができた。「情報」をはじめとする新課程入試への対応、新課程における初の共通テスト、自己採点の新たなシステムにも対応することができた。
		15	質的向上が進んでいる探究学習の成果について教員間の共通理解を深め、その成果を活用した進路実現がさらに進むよう指導体制の構築を図る。	B		探究学習は充実してきており、さまざまな成果が出ているが、探究の成果を活用した入試に向けた指導体制の構築にはまだ至っていない。志望理由書や面接などで探究学習をはじめとする高等学校での学びや将来の展望を自分の言葉で語ることのできる生徒の育成を目指していきたい。
生徒指導と特別活動	人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を尊重し、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。	16	「人権三法」の確実な理解を土台に、基本的人権を尊重する心を育み、人権問題を直視し、解決に取り組む姿勢を育成する。また、多様性を尊重する意識と協調性のさらなる向上を目指し、系統的な人権学習を実施する。	B	B	毎週の人権教育推進会議を活用し、学年部と各分掌とが連携を密にしながら3年間を見通した効果的な人権学習を実施することができた。人権学習の時間だけでなく、日々の教育活動の中でも継続的に人権意識の向上を図ることが大切である。教職員の人権研修も充実した内容で実施することができた。
		17	生徒との対話を重視しながら、規範意識の向上や基本的生活習慣の確立に生徒が主体的に取り組む姿勢を育てる。	B		「生徒主導による生徒心得（校則）の改訂案作成」や「生徒発信によるとこのは祭のルール制定」を通して自分たちで身近な課題の解決に取り組むことで、規範意識の向上につながるよう主体的な取組に力を入れた。規範意識を持った生徒が多く、集団の中で互いに高め合っている。一方で、SNSを含めた携帯電話に関するマナーについては、啓発の継続と意識の向上が必要である。生徒を一個人として尊重することと、責任ある行動を求めることをあわせて指導することが重要である。
		18	学校行事、部活動、生徒会活動などのあらゆる教育活動を通して、自己有用感、自他を尊重する態度をさらに向上させる。	B		「部活動部員やボランティア委員による特別清掃活動」や「とこのは祭の計画・準備・実施・振り返り」、「各種委員会活動」を通じて、学校や集団の中で自分の役割を責任をもってこなすことで、他者から必要とされていることを認識できる機会がもてるよう取組を進めた。 各種行事をはじめとする取り組みにおいて、生徒自ら運営に携わり、主体的に参加する状況が多々見られた。文化祭のクラス発表ではその質の向上が感じられた。
		19	3年間を見通した主権者教育やデジタルシチズンシップ教育の体系化を図る。	B		デジタルシチズンシップ教育年間計画の作成、主権者教育の近年の取組についての整理をすることができた。いずれも教育活動をすすめながら、見直し・改善をしていく必要がある。 デジタルシチズンシップ教育は人権研修だけでなく、あらゆる学校生活の場面で行う必要があると考える。また、生徒が生徒心得の改訂などに関わることで、自分たちで身近な課題の解決に取り組む態度が育まれ、主権者意識の醸成にもつながるよう取り組みも進めることができた。
		20	保護者や関係機関との連携を強化して、心身両面において支援の必要な生徒のニーズに対応し、健やかな学校生活が送れるよう支援する。また卒業後の自立に向けた支援にも努める。	A		生徒の個々の状況に応じて、関係機関と連携し教育支援を丁寧に行うことができた。卒業後の進路実現に向けて学年部・進路部・保健部が連携して支援・対応することができた。

健康安全と環境美化	すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。	21	教室の換気や手洗いの励行、場面に応じた適切な対応など、生徒の感染対策への意識を持続させる。また、空気検査やCO2モニターを活用し、学習環境を整える取組に努める。	B	A	CO2モニターの設置が換気への意識づけにつながっている。教室の換気は常にしておく必要があるが、来ていないところも見受けられる。手洗いの励行についてはよくできているが、使いやすい手洗い場があるとさらに意識付けがしやすいと思われる。
		22	清掃活動や保健美化委員会の活動を通して校内美化に関する意識をより高め、学校全体で、節電、ゴミの分別と減量、美化意識の向上につながる取組を実施する。	B		清掃活動は円滑に実施できているが、さらに高いレベルでの校内美化を目指すことができるとと思われる。保健美化委員会の活動として、美化啓発ポスターの張り替えをおこなった。ゴミの分別については回収業者からの改善への指摘はなかったが、正しいゴミの捨て方（分別）やゴミの減量には改善の余地がある。電気使用量については前年度比減を達成中であり、排出量は横ばいである。今後更なる減量化を呼びかけたい。
		23	CO2排出削減、省エネルギー等の観点から、環境意識を涵養するべく、電気・ガスの使用量に関する情報の共有を図る。	A		教職員向けにはコミュニケーションアプリを通じて適宜情報が発信されている。電気使用量は減少傾向であるが、料金が高騰している状況であり、ゴミの排出量は横ばい状態である。排出削減や省エネルギーについては努力すべき点があるが、情報の共有が教職員の意識向上につながっている。今後は生徒向けでも使用量等の発信を行い、環境意識の涵養を図りたい。また、電気代や使用量を伝えるだけでなく、地球温暖化やエネルギー問題について環境教育を行うことも必要である。
学校図書館の活用	学校図書館の機能や役割をさらに充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なものとする。	24	各種広報や企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。	A	A	企画展示、レイアウト等、見やすく興味を引くよう工夫されている。生徒の主体的な学びの場として図書館の充実が図られており、生徒の読書習慣の確立につながっている。ライブラリーニュースや英語多読の企画、さまざまな催しなどを通して生徒が自ら進んで図書館を活用する環境が整えられている。
		25	図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実やＩＣＴ機器の活用に努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。	A		探究活動をはじめとして、授業において図書館が積極的に活用されており、学習活動に図書館が有効に機能している。探究活動や教科の授業だけでなく、小論文指導などさまざまな取り組みにおいても図書館が重要な役割を果たしている。探究学習に対して充実した資料を提供すべく、図書以外の資料（新聞記事等データベース）も含めた「調べ方」を案内する機会を設けることもできた。
		26	教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。	A		図書部が、教職員のニーズに応える体制を整え、充実したサポートがなされており、授業での図書館や資料の活用を積極的に行うことができた。
家庭・地域社会との連携と広報活動	校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれる学校をめざす。	27	大学等の高等教育機関や企業、地域等に加え、卒業生との連携も推進し、「ほんまもん」の学びを提供する。	A	A	サマーセミナーにおいて新たなコースを企画するなど、内容をさらに充実させることができた。サイエンスレクチャーにおいても新しい講師を招き、実施することができた。今年度から卒業生人材バンク「嵯峨野高校サポートチーム」を運用し、ラボTA、発表会の講評、キャリアに関する講話など、今まで以上に卒業生の活用を推進することができた。また、卒業生講話を通して受験勉強や大学での学びについて生徒が具体的なイメージを持てるような効果的な働きかけができ、生徒のキャリア形成の促進に結び付いている。ラボでは、生徒が探究のテーマに応じて主体的に大学・企業・地域等と連携しながら学びを深めることができた。
		28	説明会や中学校訪問、ブログの充実等、全校体制による、より効果的で受け手に響く情報発信に努める。	A		学校説明会や中学校訪問等、全校体制で対応することができた。今年度からSNSを活用した情報発信を開始し、順調にフォローを増やすことができている。今後、ブログも含め、もう少し投稿数を増やしていきたい。学校案内のパンフレット・学校紹介動画は、デザインから生徒が携わり、生徒目線での学校の魅力を発信することができた。説明会については、よりポイントを絞った形での発信を心がけた結果、参加者から良い評価をいただいた。今後、教員の負担軽減や費用等を考慮しながら、より効果的な広報のあり方を検討していきたい。
学校関係者評価委員会による評価		・教員の熱心な指導のもと、生徒の主体性を重んじた教育が実践されている。評価について、もっと高く評価してよいと思われる。 ・コロナ禍が明け、ようやく活気ある教育が戻ってきた感がある。校内での探究発表会等に保護者を含め外部の参観ができるようになってきたこともよいことだ。 ・探究活動や海外交流も活発に行われている。探究の成果が校外でも数多く発表されていることは素晴らしい。 ・卒業生の活用が充実していることも素晴らしい。 ・今まで大切にしてきたことを守りながら、時代に応じた教育が実践されている。過去の蓄積と新たな伝統を作る「嵯峨野ブランド」をこれからも高めていってほしい。 ・自転車のヘルメット着用については引き続き指導していってほしい。				
次年度に向けた改善の方向性		・スクールミッションとスクールポリシーに則った「ほんまもんの学び」の実践を推進する。 ・SSH事業や探究活動、グローバル教育等、本校の特色ある取組をさらに充実させる。 ・人権尊重の意識、規範意識を向上させる教育、命を大切にする教育を継続していく。 ・学校行事や部活動等を充実させ、主体性ある生徒の育成に努める。 ・全ての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようサポートする。 ・観点別評価を適正に実施し、指導と評価の一体化を目指した教育を実践する。 ・生徒の希望進路を実現させるべく指導のあり方を検討し、実践する。 ・学校説明会や嵯峨野ブログ等を通して本校の教育活動を積極的に発信する。 ・分掌間の連携を密に、全校体制で教育活動を推進する。 ・教職員研修を充実させる。 ・安心安全な学習環境、校内美化の充実を図る。				